

ゴンドラ

No.22

大阪・関西万博 2025 を終えて

2025年4月13日～10月13日に開催された大阪・関西万博は、一般来場者数が2557万8986人となり、また公式キャラクターであるミャクミャクの関連グッズの爆発的な売れ行きで、運営費の収支見込みは黒字になるなど、結果として、開催前の「逆風」から大きく風向きが変わったようです。当館でも万博開催にあわせて、4月からのスポット展示のテーマを「1970 大阪万博」とし、所蔵資料を紹介しました。その内容を「広報かしわら」で周知するとともに、1970年の万博に関する資料を持っている市民に向けて、資料館で一次的に預かる形で、展示資料の募集をしたところ数件の問い合わせがあり、6月以降のスポット展示では、そうした寄託資料の展示も行いました。

館外での活動としては、5月9日に開催された「大阪ウィーク」にて、万博会場内のEXPO メッセ・WASSEの「やりなはれゾーン」へ学芸員が参加し、当館が所蔵する綿繰り機、糸車を会場に持ち込み、綿繰り、糸紡ぎを来場者に体験してもらいました。当日は雨天で出足が悪かったため、あまり人が来ないのではないかとおそれましたが、お昼前からは外国人も含めた人の波が続々と押し寄せ、スタッフは昼食の時間もなくなるほど大盛況となりました。「柏原市」というワードが体験した人にどこまで届いたのか少々心許ないですが、海外の人とも非常にフレンドリーに触れ合える雰囲気は、万博ならではのと感じました。

数十年後、「2025 大阪・関西万博」をテーマに関連する資料を歴史資料館で展示する機会が必ず来ます。その時まで、貴重な資料を大切にお持ちいただき、展示にはぜひご協力お願いいたします。



「大阪ウィーク」(5月)



スポット展示 (9～10月)

企画展のご案内

◎令和7年度春季企画展「土を盛り石を積む」

令和8年3月21日～6月7日

府内でほかに例のない積石塚である松岳山古墳、茶臼塚古墳について、最新の調査成果などを紹介します。

お知らせ

◎オンラインイベント

ビジュアルヒストリーガイド in 柏原【参加費：無料、申込み：不要】

市内の遺跡の様子をリポーターが現地から中継し、学芸員が資料館にて遺跡や出土資料の解説をします。パソコンやスマホさえあれば、ご自宅やお好きな場所から、誰でも自由にご参加いただけます。◆毎月（3・4・8・12月を除く）最終月曜日 14:00～15:00

【参加方法】

- ①あらかじめ右の2次元コードを読み込み、ZOOMをダウンロード、およびインストールしておいてください。
 - ②開始10分前になりましたら、再度、2次元コードを読み込んでください。
- ※ZOOM利用時の通信料は、各参加者のご負担となります。ご参加に際しては、Wi-Fi環境下での通信をお勧めいたします。



春季企画展ポスター



刊行物

・柏原の歴史5－明治時代～－【1,100円】

『柏原市史』に替わる書籍です。最新の調査研究成果を踏まえ、写真や図を多く掲載した、わかりやすい構成になっています。

・河内国大県郡雁多尾畑村 光徳寺文書目録 I

〔柏原市古文書調査報告書 第20集〕【完売】

雁多尾畑地区に所在し、河内きっての古刹として知られる光徳寺が所蔵する古文書の調査報告書です。

・柏原市立歴史資料館 館報37号【400円】

歴史資料館の令和6年度の活動報告とともに、調査・研究報告「鳥坂寺跡出土特殊文様タタキの研究」「鳥坂寺跡出土文字瓦をめぐる」「史料紹介 玉手山安福寺所蔵『玉手新田諸色勘定帳』」「柏原船『柏原船方大勘定帳』について」を掲載しています。



企画展を終えて

★令和6年度冬季企画展「柏原の大正時代—暮らし・学び・ぶどうづくり—」

令和7年1月4日～3月2日 見学者数 1,958人（個人 1,369人、団体 589人）

★令和7年度春季企画展「周溝墓誕生—やがて古墳へ至る道—」

令和7年3月22日～6月8日 見学者数 2,141人（個人 1,741人、団体 400人）

★令和7年度夏季企画展「柏原の古刹 光徳寺の歴史と至宝—雁多尾畑、そして大坂—」

令和7年6月28日～8月24日 見学者数 1,960人（個人 1,912人、団体 48人）

★令和7年度秋季企画展「大和川つけかえと万年長十郎」

令和7年9月9日～12月7日 見学者数 8,658人（個人 4,065人、団体 4,593人）

映画「国宝」と新たなミュージアムグッズ

令和7年度に話題となった映画「国宝」のロケ地のひとつが、柏原市石川町・玉手町にある国登録有形文化財の「玉手橋」です。作中での登場は短い時間でしたが、主人公とその親友でもありライバルでもある2人が、夢を語り、また想いをぶつけ合う印象的なシーンの舞台となったのが玉手橋です。映画「国宝」は歴代の実写映画で興行収入1位を記録するなど大ヒットし、その影響で玉手橋を「巡礼」している方も多ようです。

現在も地域の重要な生活道路として利用されている玉手橋は、昭和3年もしくは4年3月17日に掛けられた長さ151mの吊り橋で、大阪鉄道（現在の近畿日本鉄道）により架橋されました。道明寺駅と玉手山遊園地を結ぶ道として整備され、遊園地のイメージにあわせて、橋脚などのデザインは、どこかヨーロッパのお城を連想させるものとなっています。構造的には、兩岸と4組の塔で支える5径間の吊り橋は、日本最多径間の吊り橋です。昭和59年にワイヤーの追加がされるなどの補強工事、平成10年に塗装補修が行われ現在の姿となり、平成13年には歴史のかつ建築史的な重要性から、国の登録有形文化財となりました。

市内にある貴重な文化財が、こうしたメディア登場をきっかけに注目されることは非常にうれしく思います。映画での注目を受け、玉手橋や市立玉手山公園についても数件のテレビ取材や撮影があり、当館学芸員も出演しました。そうしたうれしい反響もあり、新たに玉手橋をデザインしたトートバッグを作成しました。玉手橋の架橋当初の姿を再現したため、現在ある橋脚上部中央の照明はなく、橋の入口（出口）の欄干の形状が今と異なっています。また橋全体のイラストは、約1/700スケールです。巡礼のお供にぜひこのトートバッグをどうぞ。



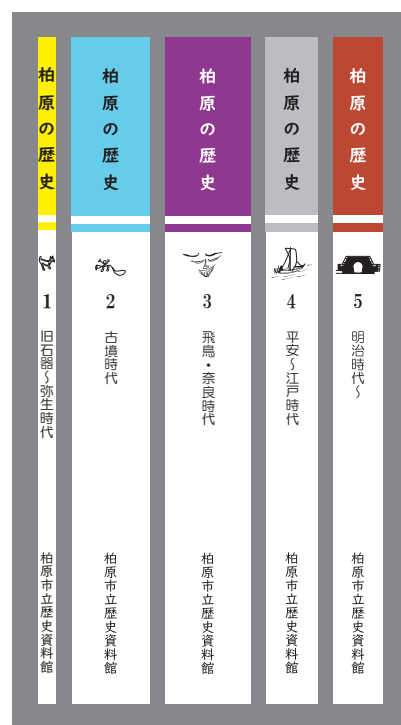
新たなトートバッグ

「柏原の歴史」の刊行を終えて

柏原の歴史をまとめた『柏原市史』（全5巻）が刊行されて約50年が経過しました。柏原市では、昭和55年（1980）以来、本市が主体となって埋蔵文化財の発掘調査を実施するようになり、40年余りのあいだに膨大な資料・情報・研究の蓄積がなされています。また、古文書や民具の収集・研究などにより、近世・近代の歴史も明らかになってきたことが多数あります。新たな国史跡指定、柏原市文化財保護条例の制定による市の文化財指定などもあります。そのため従来の『柏原市史』で柏原の歴史を知るためには不十分な点があり、市民からも『市史』に代わる書物の刊行が要望されてきました。そこで、これまでの調査・研究成果を踏まえて、『柏原の歴史』全5巻を令和4年（2022）から毎年1冊ずつ刊行し、令和8年3月で無事に刊行を終えることができました。

柏原市には数多くの古墳や古代寺院跡があり、古代の歴史は日本の歴史そのものであります。その後も大坂夏の陣や大和川付け替えなどの大きなできごとがある一方、地域に残された古文書は人々の生活のようすを語ってくれます。生活に密着した道具である民具も貴重な資料です。これらは、柏原市の発展、変化を語る大切な資料です。これらの資料を通じて、柏原の歴史をできるだけわかりやすくと心がけて記述しています。

全体で900頁近くに及ぶ『柏原の歴史』全5巻の刊行を無事に終えることができましたが、まだまだ書かなければならないことがあります。今後、本書の内容が更新されていくことが、柏原市の歴史解明には必要です。市域の歴史は、市民の方々の財産となるはずで、『柏原の歴史』を読んで、みなさんが柏原市の歴史に関心を持ち、郷土の歴史・文化財を育む一助になることを期待します。多くの方に手にとっていただければ、とてもうれしく思います



「柏原の歴史」1～5の背表紙

ひとこと

大阪・関西万博へは一度しか行けませんでした。訪れたイタリア館は印象的でした。多くのパビリオンが映像や最新技術をアピールしていましたが、イタリア館には歴史的な「本物」の彫像や絵画が並んでいたことが、多くの人を魅了した理由だと感じています。(W.Y.)



柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日は開館）、年末・年始

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料

ホームページ2次元コード

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL: 072-976-3430